様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成　２９　年　　６　月　２１　日現在

機関番号：　２３９０１
研究種目：　基盤研究(C)（一般）
研究期間：　2014～2016
課題番号：　２６３７０２０８

研究課題名（和文）中世近世移行期の大名家における〈文化としての武〉の創成に関する基礎的研究

研究課題名（英文）The Military Culture of Daimyō Families in Premodern Japan

研究代表者
中根　千絵（NAKANE, Chie）

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：８０３２６１３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：中世以来の実践する武という価値観から脱却し、平和の時代を志向する17世紀の価値観に即応するように、武的価値観が再編されていく様相を物語・絵本絵巻・屏風・故実書・兵法書等の内容と扱われ方の両面から分析し、把握した。１，「神祇宝典」等の各藩の重要書物と大名文化の〈武〉の象徴としての八幡信仰の関係２，吾妻鑑の儀礼における扱われ方３，貴久記の各藩での位置付け４，和漢軍談のような対外的視点を有して記されたものの位置付け５，本朝三国志、長久手記のような戦国期の事を記したものの位置付け６，今昔物語集のような説話集の位置付け７，大名家における豪華絵巻の受容

研究成果の概要（英文）：The early Edo period could be regarded, on one hand, as a modern period in terms of the political history, but, on the other hand, as a transition period from medieval to modern era from the cultural point of view. For instance, starting from the medieval to modern times, the various texts of the gunki monogatari; that originated in the medieval period were transformed into pictures, such as those decorating the folding screens of that time. Since the warriors original role was to take part in battles, their fierce attitude was successfully restored in the gunki monogatari and was regarded as the norm for the future samurai generations, while the scenes depicted on the folding screens became symbols of their identity.

研究分野：　中世説話文学

キーワード：　中世近世移行期　大名家　武

１．研究開始当初の背景

(1) 2013年６月に名古屋で開催された説話文学会大会で、本科研費代表者の中根千絵と分担者鈴木彰を中心に企画したシンポジウム「寛文・延宝期の文化的動態―再編される文と武―」では、軍記物語の絵入り版本、尾張徳川家の絵入り本、同時期の神仏関係の３つの報告をめぐって、寛文・延宝期の問題が軍記物語の受容にとどまらず、豪華絵巻、お伽草子などの多くのジャンルと相互的に関わっていることが活発に議論された。本学会で、この時期の個別のジャンルの分析にとどまらない総合的な分析と考察が必要である。

(2)17 世紀は幕藩体制の確立期であり、政治的な動向を踏まえずして文化的動向を抑えることができない。各藩がかかえていた個別的事情を踏まえて、各藩における文化的動向を、作品のジャンルに縛られることなく、包括的に把握するような議論はまだ進んでいない。しかし、それこそが今後重要な観点である。

(3)軍記物語研究では、ここ十年ほどの間でいわゆる享受・受容論が進んでおり、近世の軍記絵の世界への関心も高まっている。ただし、それらはまだ個々の作品の受容論として論じられるにとどまっている場合が多く、それらが受容された地域差や個々の事情、それぞれの文化環境について踏み込んだ検討はまだまだであるが、本研究の分担者である鈴木彰は、『中世文学』に載せられた「「佚文」の生命力と再生する物語―薩摩・島津家の文化環境との関わりから―」には、完本としての『平家物語』を収集する志向より、最初から『平家物語』の中でもその時代、その藩に必要と認識され、選びとられた場面が意図的に収集された可能性を論じており、そうした観点からの研究を進めている第一人者である。

(4)分析対象となるであろうものは軍記物語だけではなく、幸若舞曲、能、お伽草子、寺社縁起など、〈武〉を表現し、また〈武〉を表象するもの全てを含む。たとえば、『竹取物語』のような王朝物語であっても、ある武家の所蔵品となったとき、その家の〈武〉に新たな価値観を添えるものとなるであろう。また、武家故実・兵法書や武家の知の実態についての状況を踏まえることは重要であり、本研究の分担者である小助川元太にはこうした側面からの多様な研究蓄積がある。

２．研究の目的

これまで、中世文学と武的価値観との関係といえば、主に実際の戦いに関わる作品を通して研究が進められてきた。しかし、その時代が終わったあとに継承され、新たに創造された〈武〉を表象する認識や文物については、充分に把握されたとは言い難い状況にある。そこで、本研究では「文化としての〈武〉」という観点を打ち出し、そうした観点から、中世の〈武〉と関わってきた物語や品物、認識等が、近世的な価値体系の中でどのように再編されていったのかを、中世から近世への過渡期となる 17 世紀の政治的・文化的諸状況を踏まえつつ解き明かしていく。分析対象としては地域や社会的立場を異にする三つの藩を取りあげ、その実態を比較検討する事例研究を通して、将来的な全国規模の分析に取り組む為の分析軸と評価軸を提示することを目的とする。

３．研究の方法

(1)初年度の 2014 年度は、各藩で作成された書籍目録を調査し、〈武〉を表現・表象する物語・絵本絵巻・故実書・兵法書等が収集、蓄積されていく過程を把握することが作業の中心となる。次年度は、引き続き、作業を続けつつ、調査の過程で見出された新出資料・重要資料については、所蔵機関に配慮しつつ翻刻やテーマ別目録等の形で紹介する。最終年度は、中世以来の、実践するための武という価値観から脱却し、平和の時代を志向する 17 世紀の価値観に即応するように再編されていく様相を、物語・絵本絵巻・故実書等の内容と扱われ方の両面から分析し、把握する。そのうえで、情報収集と成果の社会還元のため、シンポジウムを開催し、成果の社会還元を図る。

(2)資料調査は、尾張藩は中根、龍澤、毛利藩は鈴木、宇和島藩は小助川が担当し、各藩の①蔵書・調度品等の目録、②家譜・系図類、③戦国期について記した覚え書き、④兵法書（その近世的変容）を中心に分析する。

４．研究成果

(1)２０１４年度研究成果

①尾張藩（徳川美術館等の調査）

＊室町期作成のものが 17 世紀以降作成の 3 重の箱に入れられ、再利用されることを実見。

＊嫁入り関係から目録を紐解いた。

＊納戸役の日記からお道具の関係を確認。

＊道具帳（蔵帳）の調査。

＊清泰院大姫の婚礼調度目録の資料名と翻刻が掲載されている『漆工史』の情報、「尾張徳川家の名宝」の論文（尾張家関係の物の出入りについてふれている）の確認。
■以上の調査から下記の分析を行った。
＊「天神縁起」「源氏」「平家」「源満仲」「義経記」「奥羽軍記」「聖賢図」における武に受容される内容の意味を考察。（時代については、鑑定人「申間」人の名前で特定。）
＊「三十六歌仙」「藤袋草子絵巻」「大師縁起」「浦島絵巻」、経典・仏像（万松寺預かり・篁作地蔵など。）から古筆・故実の文化的意味の考察。
＊「神祇宝典」と八幡縁起の関係を考察。
＊各藩が平家関係を受容する時の嗜好の違い、各藩が聖賢図を受容する時の嗜好の違い、各藩のオリジナル豪華本と始祖伝承との関わりを考察。

②毛利藩関係の書籍調査
（12 月 19 日～12 月 21 日）
１.兵法書、絵巻の撮影。
２.幸若関係の本、撮影。
３.源氏物語絵巻の熟覧及び、伝来の調査。

(2)２０１５年度成果
各藩で作成された書籍目録を調査し、〈武〉を表現・表象する物語・絵本絵巻・故実書・兵法書等が収集、蓄積されていく過程を把握した。
①毛利藩関係の目録と実物を照合しつつ、再度、調査を行った。その中には別の藩からもたらされた『源氏物語絵巻』が含まれており、その書誌調査と写真撮影の後、担当の龍澤彩がそれの特徴について学会発表を行った。この資料については、極めて貴重なものであるとの判断から出版を計画。
②尾張藩の書籍目録の幾つかを２０１４年度、収集したが、さらに、２０１５年もそれを継続し、中でも特に、「御文庫御書物便覧」と称される書籍目録に着目し、分析を進めた。その目録には、集めた藩主の名や書誌が記されており、担当である中根がそれを分析した結果、17 世紀の書籍の収集の在り方には、始祖である徳川家康に対する尊崇の念が介在していることが明らかとなった。
③宇和島藩の資料について、伊達家のご許可をいただき、鈴木、小助川、中根の 3 人で調査を行った。その中に、越前高田藩の目録も含まれており、ちょうど、廃藩の時期が 17 世紀であったことから、本研究課題に即した貴重な情報が得られた。これらの資料については、書誌調査と共に、写真撮影を行い、今後の分析のために資料の整理を行った。

(3) ２０１６年度研究成果
①九州大学図書館調査（２０１６年8月１７日～１８日）
■閲覧した資料
１.「上蔵院文書一・二」（記録資料館・長沼文庫　146・ID：412765）
２．右中弁光賢「書状」
（記録資料館九州文化史資料部門・宇土細川家文書 1965・ID：1637369）
３.「小松邑誌抜萃」（記録資料館・長沼文庫-雑　156・ ID: 412791 ）
４.「八幡宮縁起」
（記録資料館九州文化史資料部門・手島家文庫-雑 49 ID: 1633813 ）
５.「宇佐宮現記」
（記録資料館九州文化史資料部門・B-18-32/島原藩 30・ID: 1571738 ）
６.「宇佐宮略記」（記録資料館九州文化史資料部門・B-18-31-2/島原藩 29）
うつほ物語絵巻　545/ウ/14
・曾我物語（奈良絵本）１２冊　貴重書　５４５／ソ／４／１～１２
・御曹子島渡り　913/オ-2/1-1,2
・吹毛抄　750/フ/3
・太平記（廣瀬文庫版平仮名絵入本）４１冊　貴重書　５４６／タ／３
・曾我物語（奈良絵本）１２冊　貴重書　５４５／ソ／４／１～１２
・日本王代一覧（廣瀬文庫）７冊　貴重書　６１０／ニ／３１C
・伊勢物語（支子文庫）２冊　貴重書　９１３／イ－１／３－１／２
・中将姫　２冊　（支子文庫）貴重書　９１３／４－１／１／２
・故事人物絵本　１冊（雅俗文庫）　貴重書４０／２／０３２
・本朝画賛　１冊（雅俗文庫）貴重書　４０／２／０４５
・宇佐宮縁起　中央図書館・広瀬文庫 176/ウ/4・ID: 431093
・宇瀰宮縁起　中央図書館・広瀬文庫 176/ウ/7・ID: 1001346528
・八幡宮本紀　中央図書館・広瀬文庫 680/ハ/3・ID: 432498
※「酒呑童子」（３冊　貴重書　国文／２３／３）

②２０１６年１２月　説話文学会・仏教文学会 合同例会 2016 年 12 月 17 日(土)於同志社

大学今出川校地寧静館５Ｆ会議室
シンポジウム 「大名文化の編成と八幡信仰」
司会　立教大学　　鈴木　彰
「 尾張徳川家の大名道具に見る八幡信仰」
金城学院大学　　龍澤　彩
「湯月八幡宮の再興と武の物語」
愛媛大学　　小助川元太
「中世近世移行期における尾張・三河の八幡再興の〈物語〉」
愛知県立大学　　中根　千絵
「〔小報告〕大名家の歴史意識と八幡宮・八幡縁起－主に萩藩毛利家の事例から－ 」
立教大学　　鈴木　彰

③科研費成果発表会
2017 年 3 月 11 日(土)13 時 30 分～17 時　於
愛知県産業労働センター15 階
中根千絵「尾張藩蔵書目録に見られる『和漢軍談』
小助川元太「大名家の儀式における軍書」
龍澤彩「毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」について」
鈴木彰「尾張藩と『貴久記』―蓬左文庫本を窓として―」

(4)三年間を通しての成果
中世以来の実践する武という価値観から脱却し、平和の時代を志向する 17 世紀の価値観に即応するように、武的価値観が再編されていく様相を物語・絵本絵巻・屏風・故実書・兵法書等の内容と扱われ方の両面から分析し、把握することを目標とした。
①「神祇宝典」等の各藩の重要書物と大名文化の〈武〉の象徴としての八幡信仰の関係
②　吾妻鑑の儀礼における扱われ方
③　貴久記の各藩での位置付け
④　和漢軍談のような対外的視点を有して記されたものの位置付け
⑤　本朝三国志、長久手記のような戦国期の事を記したものの位置付け
⑥　今昔物語集のような説話集の位置付け
⑦　大名家における豪華絵巻の受容

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　21　件）
① 2017 年 3 月「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十三の本文の位置づけ」中根千絵（『愛知県立大学日本文化学部論集』査読無 8 号 53～87 頁）
② 2016 年 12 月「十七世紀の大名家における文物の受容―尾張藩の場合―」中根千絵(『神話･象徴･儀礼』2 巻　査読有　55～80 頁）
③ 2016 年 7 月「硫黄島の安徳天皇伝承と薩摩藩・島津斉興――文政十年の「宝鏡」召し上げをめぐって――」鈴木彰（井上泰至編『近世日本の歴史叙述と対外意識』査読無　85～113 頁）
④ 2016 年 7 月「『源平盛衰記』の日付設定―殿下乗合事件・水島合戦 ・山門奏上を中心に―」小助川元太（『西日本国語国文学』査読有　第 3 号 16-29 頁）
⑤ 2016 年 5 月「幕末・明治期の薩摩藩・島津家と泗川の戦い――『倭文麻環』にあらわれた事件認識をめぐって――」鈴木彰（前田雅之編『幕末明治――移行期の思想と文化』査読無　42～67 頁）
⑥ 2016 年 3 月「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十二の本文の位置づけ」中根千絵（『愛知県立大学日本文化学部論集』査読無 7 号 1～48 頁）
⑦ 2015 年 10 月「島津重豪・薩摩藩と江戸の情報網――松浦静山『甲子夜話』を窓として――」鈴木彰（鈴木彰・林匡編『アジア遊学 190　島津重豪と薩摩の学問・文化』査読無　207～222 頁）
⑧ 2015 年 10 月「〈翻刻〉奈良県立図書情報館蔵『帝鑑図説』（寛永四年刊本）巻十一～巻十二」小助川元太（『愛媛大学教育学部紀要』62　255～263 頁　査読無）
⑨ 2015 年 8 月「乱世における百科事典と文学―中世後期の武士の教養―」小助川元太（日下力監修,鈴木彰・三澤裕子編『いくさと物語の中世』313～330 頁　査読無）
⑩ 2015 年 8 月「蒙古襲来と軍記物語の生成――『八幡愚童訓』甲本を窓として――」鈴木彰（日下力監修、鈴木彰・三澤裕子編『いくさと物語の中世』査読無　109～129 頁）
⑪ 2015 年 4 月「『源平盛衰記における文覚流罪』―渡辺逗留譚を中心に―」小助川元太(松尾葦江編『文化現象としての平盛衰記』89～105 頁　査読無)
⑫ 2015 年 3 月「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十一の本文の位置づけ」中根千絵（『愛知県立大学日本文化学部論集』査読無 6 号 1～47 頁）
⑬ 2015 年 3 月「洪水の記憶・伝承・説話」中根千絵（『説話・伝承学』査読有　21 号　45～65 頁）
⑭ 2015 年 2 月「大物浦で義経を阻む風――

風と平家の怨霊と――」鈴木彰（鈴木健一編『天空の文学史　雲・雪・風・雨』査読無　199～216 頁）

⑮ 2014 年 12 月「洪水と縁起・伝承―「尾張太古図」を起点にー」中根千絵(『神話・象徴・儀礼』査読有　49～68 頁)

⑯ 2014 年 11 月「戦争と文学」鈴木彰（小峯和明編『日本文学史』査読無　129～195 頁）

⑰ 2014 年 10 月「大名家の絵本享受と絵巻・絵入本制作の隆盛について」龍澤　彩(『説話文学研究』査読無　第 49 号、4～13 頁)

⑱ 2014 年 5 月「中近世移行期のイメージをめぐる一考察　--小画面絵画が生み出した造形感覚」龍澤　彩（『美術フォーラム 21』査読無　第 29 号、58～62 頁)

⑲ 2014 年 3 月 「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十の本文の位置づけ」中根千絵（『愛知県立大学日本文化学部論集』査読無 5 号 pp.29～70)

⑳ 2014 年 3 月「文芸としての「覚書」――合戦の体験とその物語化――」鈴木彰（『文学』査読無　隔月刊第 16 巻第 2 号 136～152 頁)

㉑ 2014 年 3 月「戦争の記憶と文学」鈴木彰（高橋典幸編『生活と文化の歴史学５　戦争と平和』査読無　505～527 頁）

〔学会発表〕（計　12　件）

① 中根千絵「中世近世移行期における尾張・三河の八幡再興の物語」２０１６年１２月説話文学会・仏教文学会合同例会シンポジウム「大名文化の編成と八幡信仰」於同志社大学今出川校地寧静館 （京都市）2016.12.17（土）

② 鈴木彰「大名家の歴史意識と八幡宮・八幡縁起――主に萩藩毛利家の事例から――」２０１６年１２月説話文学会・仏教文学会合同例会シンポジウム「大名文化の編成と八幡信仰」於同志社大学今出川校地寧静館　（京都市）2016.12.17（土）

③ 龍澤彩「尾張徳川家の大名道具に見る八幡信仰」２０１６年１２月説話文学会・仏教文学会合同例会シンポジウム「大名文化の編成と八幡信仰」於同志社大学今出川校地寧静館　（京都市）2016.12.17（土）

④ 小助川元太「湯月八幡宮の再興と武の物語」２０１６年１２月説話文学会・仏教文学会合同例会シンポジウム「大名文化の編成と八幡信仰」於同志社大学今出川校地寧静館　（京都市）2016.12.17（土）

⑤ 鈴木彰「幸若舞曲の時空」
軍記・語り物研究会２０１６年度秋例会シンポジウム「幸若舞曲研究の新地平」於法政大学市ヶ谷キャンパス（東京都）2016.11.20（日）

⑥ 小助川元太「湯月八幡宮と武の物語」 古典研究会, 福岡大学（福岡市）2016.9.24（土）

⑦ 龍澤彩「Mastering the Visualization of Heroic Narratives within Daimyō Families: The Illustrated Scroll of Shutendōji in the Edo period」生成人類学会会議第 10 回夏季国際学会（The Generative Anthropology Society and Conference）於金城学院大学（愛知県名古屋市）2016.6

⑧ 龍澤彩「毛利博物館蔵「源氏物語絵巻」について」美術史学会東支部例会於東京大学（東京都）2016.4.2（土）

⑨ 龍澤彩「On Nara-ehon and their illustrations」(「奈良絵本とその挿絵について」) Tokugawa Meeting Flankfurt 2015　於ドイツ・フランクフルト大学 2015.11.27（金）

⑩ 小助川元太「『源平盛衰記』の日付設定」西日本国語国文学会大会,長崎大学（長崎市）2015.9.20（月）

⑪ 小助川元太「『神道集』「神道由来の事」を読む」 （シンポジウム「安居院作『神道集』を拓く」）伝承文学研究会大会, 南山大学（愛知県名古屋市）2015.9.5（日）

⑫ 龍澤彩「扇絵と視覚的イメージの伝承について」伝承文学研究会大会於南山大学（愛知県名古屋市）2015.9.5（日）

〔図書〕（計　1　件）

① 2016 年 12 月『毛利家伝来「源氏物語絵巻」を読む』龍澤彩　三弥井書店 127 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
　中根　千絵（NAKANE, Chie）
　愛知県立大学・日本文化学部国語国文学
　科・教授
　研究者番号：80326131

(2)研究分担者
　龍澤　彩（RYUSAWA, Aya）
　金城学院大学・文学部・教授
　研究者番号： 00342676

　小助川　元太（KOSUKEGAWA, Ganta）
　愛媛大学・教育学部・教授
　研究者番号：30353311

　鈴木　彰（SUZUKI, Akira）
　立教大学・文学部・教授
　研究者番号：40287941

(3)連携研究者
　　　　　　　(　　　)
　研究者番号：

(4)研究協力者
　四辻秀紀（YOTUTUJI, Hideki）
　出口久徳（DEGUCHI, Hisanori）